

市場導入進む FFGS のパッケージソリューション
小松写真印刷、新工場に W&H 社製フレキシ印刷機『MIRAFLEX CM』搬入
水性フレキシ印刷でパッケージ市場に参入、5月から本格稼働

2017年4月12日

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

山形県酒田市の株式会社小松写真印刷(本社:酒田市京田 2-59-3、社長:佐藤茂枝氏)は、3月7日、本社敷地内に建設中の新工場に、独ウインドミュラー&ヘルシャー社(以下 W&H 社)製フレキシ印刷機『MIRAFLEX CM』を搬入。これに合わせて記者会見を開き、水性フレキシ印刷によるパッケージ事業への参入を発表した。



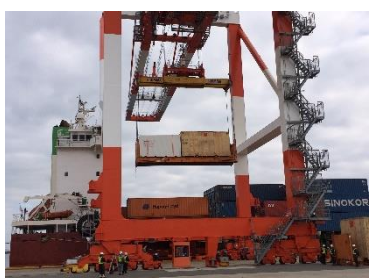
(株)小松写真印刷

代表取締役社長 佐藤 茂枝 氏



(株)小松写真印刷

常務取締役営業統括部長 佐藤 泉 氏



コンテナ陸揚げの様子(酒田港)



新工場全景



FFGS 常務執行役員 藤嶋克則

■10年、20年先を見据えた新事業への挑戦

小松写真印刷は、1902年(明治35年)創業、115年の歴史を誇る老舗印刷会社。オフセットによる商業印刷・出版印刷を軸に、Web制作、デジタルサイネージ、イベント企画・運営などを幅広く手がけ、総合情報発信企業として成長を続けている。時代のニーズをいち早く捉え、先進の技術や設備を積極的に採り入れているのも大きな特色で、最近では、『Jet

Press 720』や『富士ゼロックス Color 1000 Press』といったハイエンドのデジタル印刷機を導入し、小ロットの高付加価値印刷に取り組んでいる。

同社は、従来からの印刷事業に危機感を持ち、新たな成長分野を模索する中、4年ほど前からフレキソ印刷に着目。将来性や環境性などを総合的に判断したうえで、水性フレキソによるパッケージ印刷事業への参入を決断し、昨年6月に開催された『drupa2016』の会期中、CI型フレキソ印刷機『MIRAFLEX CM』の導入を決めた。これに合わせ、本社敷地内に新工場の建設を進めるとともに、パッケージ事業部を新設し、本格稼働に向け準備を進めている。印刷機はドイツから船便で酒田港に到着し、3月1日に陸揚げされた。

7日の会見では、初めに佐藤茂枝社長が挨拶に立ち、「社員一丸となり、どこにも負けない独創的な発想でパッケージ事業に取り組んでいきたい」と新分野参入への意気込みを語った。

続いて、常務取締役営業統括部長・佐藤泉氏が、フレキソ印刷に着目した背景について、「会社の10年・20年先を考えたときに、これまでのオフセット中心の印刷事業だけでは厳しく、業態変革の必要性を感じていた。進むべき方向を検討した結果、今後も継続的な成長が期待できる分野が、フレキソ印刷だった」と説明。そのうえで、「未知の分野へのチャレンジで、不安もあるが、皆さまのご支援をいただきながらこの新事業を成功させたい。また、昨今は環境への配慮も重要な課題。環境にやさしい水性フレキソ印刷で、日本の、そして世界の未来に貢献していきたい」と抱負を語った。

同じく登壇した、富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ（社長：真茅久則）常務執行役員 藤嶋克則は「『MIRAFLEX』シリーズは全世界で豊富な導入実績を誇るフレキソ印刷機。優れた耐久性・高速性・安定性を有しており、小松写真印刷様の新たな強みになると確信している。FFGSとしては、工場立ち上げに携わる皆さまとともに知見や技術を活かしながら、新事業へのチャレンジを全力でサポートしていきたい」とコメントした。

■軟包材のほか、紙・不織布にも対応

W&H社製CI型フレキソ印刷機『MIRAFLEX』は、独自の「堅牢性重視設計」による抜群の信頼性が特長で、全世界での累計出荷台数が450台を超えるベストセラーシリーズである。佐藤泉常務によると、この堅牢性・信頼性への定評と、国内外での豊富な導入実績が、『MIRAFLEX』採用の大きな決め手になったという。

今回、同社が導入した『MIRAFLEX CM』は、印刷速度毎分500m、印刷幅1,270mm、リピート長（版円周）最長800mmの8色機。1色分のユニットをオプションのCIドラム洗浄装置に置き換え、紙や不織布にも対応可能な仕様となっている。

新工場には、フレキソ印刷機2台分のスペースを確保しているほか、後加工機としてラミネーター、スリッターを各1台設置。クリーンルームも備える。5月からの稼働開始を予定しており、2019年8月期の黒字化を見込む。

